

富山県経済・文化長期ビジョン

(素案)

【未定稿】

(注)

- 21 ページ以降の「採るべき構想例」については、現段階での事務局からお示する案であり、今後、懇話会の委員及び県民の皆様との議論を踏まえて変更があり得ます。

平成 28 年 月 日
富 山 県

～ 目 次 ～

<本編：将来像とその展開方向>

I はじめに

II 基本的考え方（ビジョンの視点）

1. なぜ 2045 年をひとつの展望年次とするビジョンが必要なのか
2. 富山県の強みを最大限発揮するとともに弱みを強みに変える
3. ビジョンの視点
 - (1) 経済と文化の相互作用
 - (2) 第4次産業革命への対応
 - (3) パワーバランスの変化、グローバル化への対応
 - (4) 「富山アイデンティティ」の継承
 - (5) 新ゴールデンルートの確立
 - (6) 生涯現役社会の実現と健康寿命の延伸

III 3つの目指すべき将来像と9つの展開方向

1. 「2045年の将来像」を描くための考察
2. 3つの将来像と9つの展開方向

IV ビジョンの構成

□将来像1 「新たな価値創造2045」

- (1) 生産性向上と新たな価値創造の創出
- (2) 地域文化が生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」の形成
- (3) 価値創造力を高める学校教育プログラムの確立

□将来像2 「グローバル&ローカル2045」

- (4) 世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開
- (5) 世界に開かれた「とやま文化」の発信
- (6) ふるさと教育とグローバル教育の融合 (Think global, Act local)

□将来像3 「人、地域が輝く2045」

- (7) 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略の推進
- (8) 文化芸術の力による「元気とやま」の牽引
- (9) 地域の生産性、問題解決力（地域力）の向上

V おわりに

<別紙：採るべき構想>

I はじめに

- 急速な高齢化により人口減少社会に突入した日本は、市場の縮小、生産年齢人口の減少、限界集落や消滅可能都市に代表される地域課題、さらに将来にわたって社会保障制度を持続可能なものとするための国民負担の在り方や累増してきた公的債務の処理など、極めて厳しい現実と直面しています。
- 一方、世界においてグローバル化が急速に進展する中で、インターネット等の情報通信技術の進化により世界はリアルタイムで瞬時につながり、経済活動のみならず地域における日常生活も大きな影響を受けています。また、世界において技術革新は急速に進み、これまでにないスピード感での対応が求められています。地球温暖化といった一国では解決できない課題も深刻です。

さらに、地方をみても人口減少や都市部への人口集中等の影響を受けて地域コミュニティがぜい弱化し、地域のつながりが失われつつあります。これらの点から、人々の間で未来への不安や懸念が高まり、それを共有できない現状があります。
- 富山県においてもこうした現状において、問題を先送りすることなく、いわばピンチをチャンスに変えて、すぐにでも取り組むべきものは早急に取り組むことが必要です。しかし、人口減少社会の到来が予測されていたにも関わらず、今日のような現状に至ったように、目先の短期的思考の広がりや、ときに重要な課題を見過ごし、後回しにしてしまう危険性があります。
- 昨年、県民の半世紀近い悲願であった北陸新幹線が開業しました。富山県においても、これを新たなスタートとして、中長期的視点にたつて、経済・産業活性化、研究開発の革新、文化振興などにより、富山県の新たな未来を切り開いていかなければなりません。このため、今般、富山県の経済、文化、これらを担う人づくりなどを中心として、グローバル化の一層の進展など、今後日本や世界で起こり得ると考えられる大きなトレンドも勘案しながら、10年先、20年先、或いは30年先を見据えた富山県の目指すべき将来像を掲げ、本県の強みを最大限発揮し、弱みを強みに変える大胆な発想転換により、各般の施策を組立て、展開していくため、「富山県経済・文化長期ビジョン」【本編（将来像とその展開方向）、別紙（採るべき構想）】を策定することとしました。
- この度の長期ビジョンの策定を通じて、ふるさと富山県の新しい未来を構想し、新たな成長・飛躍に結び付け、活力と魅力あふれる県ひいては日本再生・再興の一翼、一端を担い得る県として、次の世代に継承・発展させていく確固とした基盤を創生したいと考えています。

Ⅱ 基本的考え方（ビジョンの視点）

1. なぜ 2045 年をひとつの展望年次とするビジョンが必要なのか

- 今、産まれてくる子どもたちが社会人となるまでには、20年、30年の年月が必要となります。こうした子どもたちのために、今、何をしなければならないか、あるいは今、どんな種をまいておけば、20年、30年先に花が咲いて実を結ぶかの認識を県民の皆さんと共有し、実行していきたいと考えているからです。
- また、30年後の2045年は、富山県において、政策的対応を行えば、いわゆる「肩車型社会」が和らぐ方向へ進み、老年人口の割合が減少し、年少人口と生産年齢人口の割合が増加することとなる人口構成の転換点であり、同年を展望年次としてビジョンを組み立てることとしました。
- さらに、国においても大きな構造変化を見込んでおり、当該予測も参考にしながらビジョンを構成する必要があります。

■（参考1）富山県における本格的な人口減少社会の到来とそのピーク

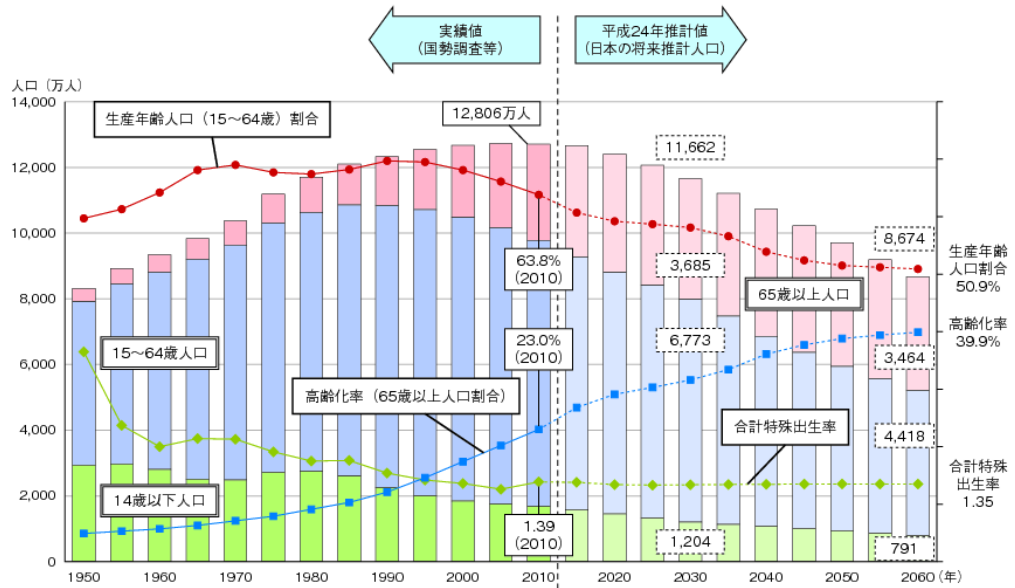
- 富山県の人口は1998年をピークに、2014年には106.7万人とピーク時よりも5.9万人減少しています。（日本の人口は、2010年をピークに減少に転じ、2014年は1億2700万人とピーク時よりも約100万人減少しています。）

また、富山県人口ビジョンでは、政策的対応を行い、将来の富山県の人口の目標を2060年に80.6万人を維持する前提で、30年後の2045年の人口を88.6万人と見込んでいます。

※富山県人口ビジョンの推計条件

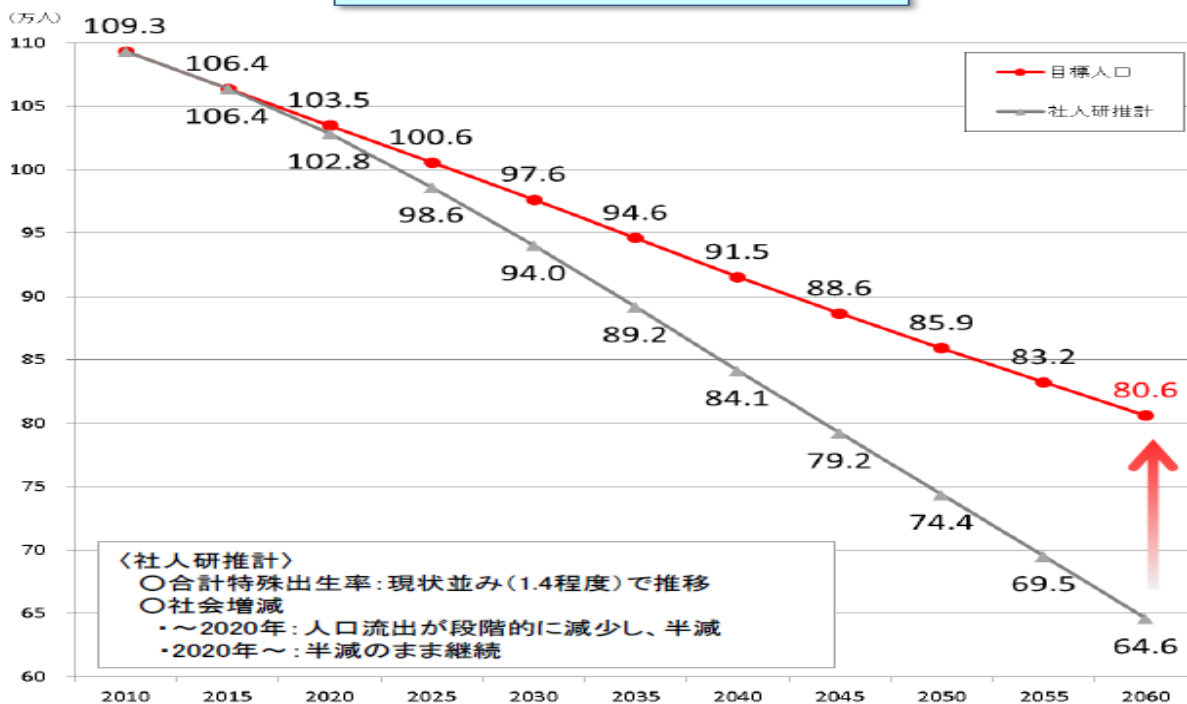
- 合計特殊出生率 2030年に希望出生率1.9を達成、2040年に人口置換水準2.07を達成（その後も維持）
- 人口移動 2020年までに若者世代の転出超過が段階的に改善、2020年に移動均衡（その後も継続）

日本の人口の推移及び将来予測



[出典] 総務省

富山県の人口の将来展望



[出典] 富山県人口ビジョン

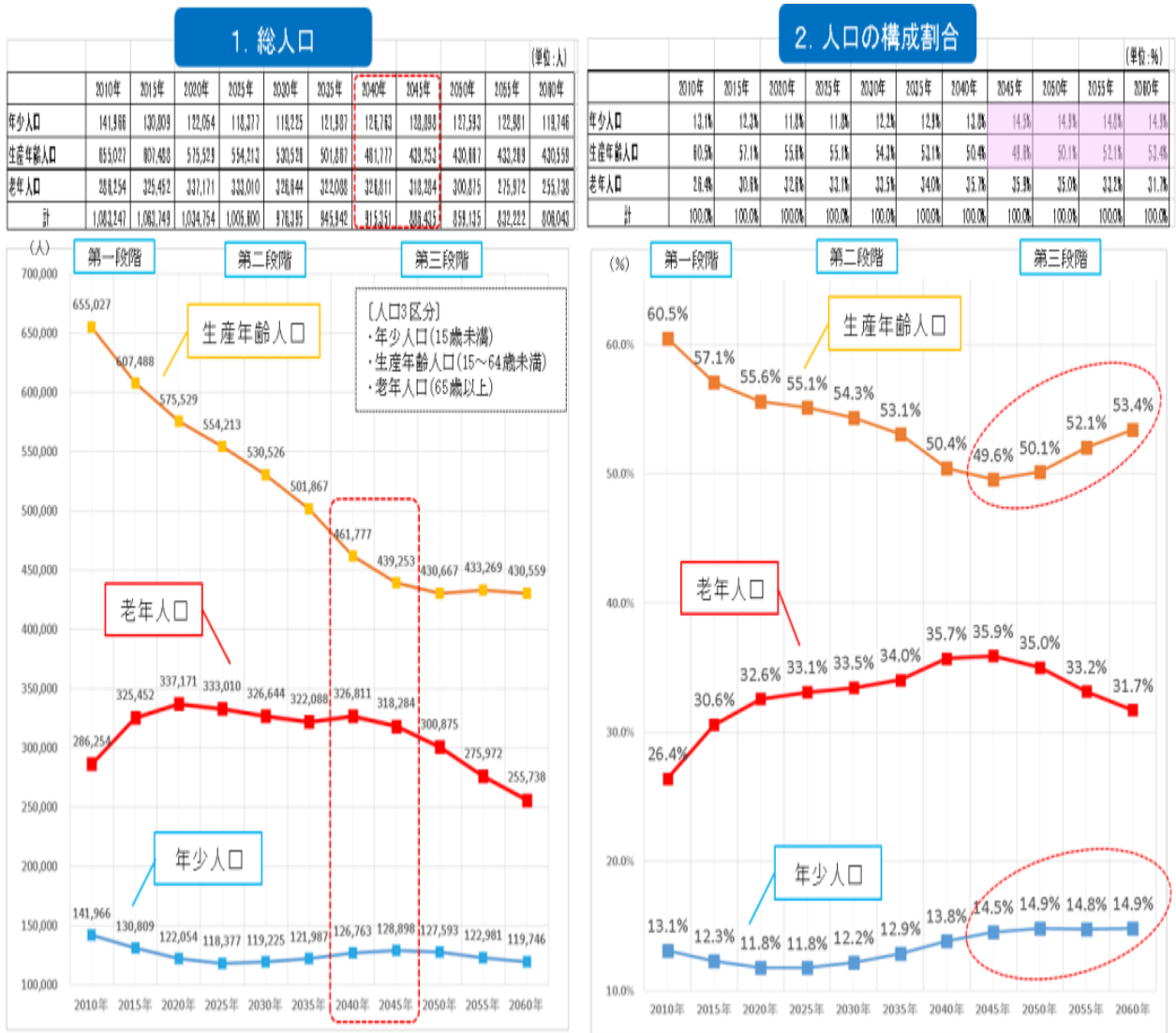
○ 本県の人口減少段階（富山県人口ビジョンにおける将来展望）を見ると

①2020年までは、「年少人口」及び「生産年齢人口」の減少する中で、老年人口が増加する「第1段階」

②その後、「老年人口」が維持・微減となる「第2段階」

③さらに、2045年ごろには、「老年人口」も減少していく「第3段階」

へ進行すると見込まれています。

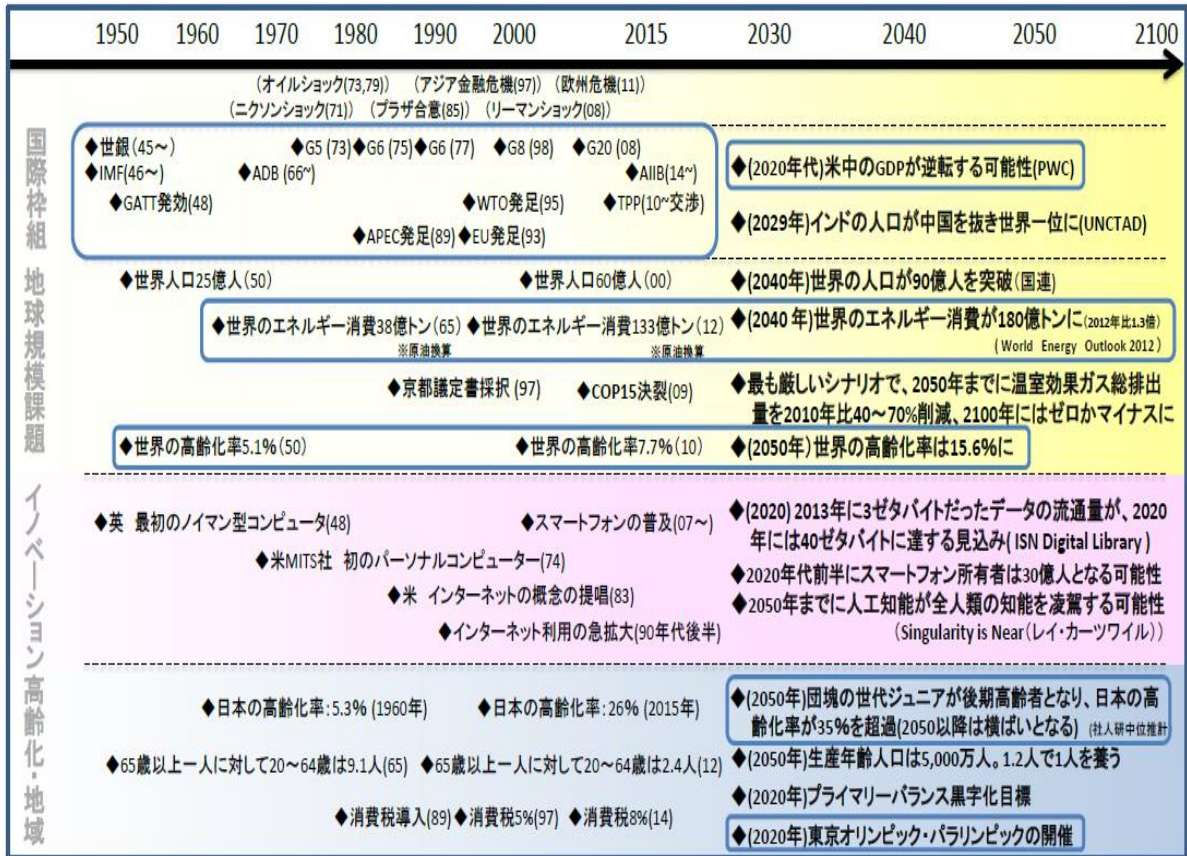


〔出典〕富山県人口ビジョン

○ 一方で、人口の構成割合を見ると、政策的対応を行えば、2045年頃以降には、「老年人口」の割合が減少に転じ、「年少人口」及び「生産年齢人口」の割合は増加すると見込まれており、いわゆる「肩車型社会」が和らぐ方向へ進むことが想定されています。

■ (参考2) 国における中長期的な展望の必要性

○ 国においてもこれまでの時代潮流を踏まえ、国際的な枠組、地球規模課題の顕在化、技術革新など大きな構造変化を見込んでおり、中長期的な視座に立った政策の必要性を指摘しています。



[出典] 産業構造審議会第16回(H27.4.27)配布資料

2. 富山県の強みを最大限発揮するとともに弱みを強みに変える

(富山県の強みと弱み)

- 三方を山に前面を海に囲まれる奇跡の地形において、四方から異なる文化がぶつかり合い混合する独特の風土の中で、急流河川の治水に黙々と取り組んできた歴史的な背景等から、富山県の強みである勤勉でチャレンジ精神旺盛な県民性を培ってきました。日本の中でもトップクラスの就業率、県民所得の高さはそれを根拠づけています。そして、その人材は、豊富な水力発電等の自然の恵みとともに、日本海側屈指の工業集積を支える基盤となっています。

例えば、一兆円産業の夢がふくらむ「くすりの富山」。そのルーツである 300 年を超える歴史と伝統を有する「富山売薬」は、交通の不便な江戸時代後期、「西廻り航路」の活用と先用後利による積極的な販路開拓により、富山から陸路・海路の両面で、当時としては奇想天外ともいえる全国行商の販売ルートを確立しました。

また、「九転十起（9 回転んでも 10 回起き上がる）」の気構えで京浜工業地帯の礎を築いた浅野総一郎、商人から努力して日本初の保険会社を設立した安田善次郎、和式帳簿から始まり、「(越中) 国の誉れとなるように」と文具メーカー「コクヨ」を起業した黒田善太郎など、我慢強く行動力のある県民性は、優れた実業家を輩出してきました。

- 雄大な立山連峰、世界で最も美しい湾クラブに加盟した富山湾など山と海に囲まれた豊かで美しい自然環境、さらには良質な水と新鮮でおいしい食、多くの観光資源があることも強みの一つです。また、いわゆる「逆さ地図」（「環日本海・東アジア諸国図」【参考 1】）は、その中心に位置する富山県がアジア大陸に向けた日本の玄関口であることを示しています。富山県はこの地の利を活かし、中国、台湾、韓国、ロシアなど環日本海諸国との間で、これまで様々な経済活動や文化的交流を進めてきました。

- また、伝統文化が継承され、文化的基盤が生活の中に溶け込んでいるということも強みです。伝統的な祭りや、獅子舞に加え、舞台芸術等の国際的に評価が高いものもあります。伝統的な文化にとどまらず、クリエイティブな文化も生み出されています。作者が富山県出身のドラえもんは老若男女が楽しめる漫画、テレビ番組であり、昭和時代から今に至るまで親から子へ引き継がれ、現在ではアジア諸国等の人にも広く受け入れられています。

- 富山県は、今から 133 年前の明治 16 年 5 月 9 日、石川県から分離して誕生しました。誕生当時は、水害など災害も多く、全国的に貧しい県の一つといわれていましたが、県民による努力を通じ、今では住みやすい県として確立しています。過去の自然災害を経て習得した砂防技術等に代表される災害への備え、良質な水資源と安価な電力、高速道路網や、富山空港、伏木富山港などの交通インフラの整備拡充により、日本海側屈指の工業集積を果たし、持ち家率の高さに代表される住居、医療・介護の基盤、保育所等の子ども関連の施設・サービスといった生活のための基礎的なインフラが充実し、

さらには土徳という言葉でも表される地域における土地と人のつながりや人と人との絆が色濃く残るなど、全国でもトップクラスの住みやすい県となっています。

- そして、貧しい県であった富山県はそれをバネにして、教育による人づくりに力を注いだことで現在の「教育県とやま」を作り上げました。その教育にかける情熱は、例えば、旧制富山高校に出資した馬場はる、富山大学の黒田講堂を寄付した黒田善太郎、県立大学の前身となる短期大学に県と共同出資した大谷重工業の大谷米太郎・竹次郎兄弟など、教育に自らの資材を還元しようという先人の行動にも現れています。現在においても、例えば、全国トップクラスの図書館数が示すように、教育熱心な県民が地域全体で県内の教育を支えています。
- 一方で、こうした産業や文化の県内における点在的な基盤の集積は、ともすれば、内向きな満足感をもたらし、ときに外との関係で閉鎖的だと指摘されることもあります。また、その控えめな県民性から、富山県の魅力を十分に国内外に発信することなく、人々を外から引きつけ、交流することで経済・文化を活性化するという発想が弱いことが富山県の弱みといえます。

(「強み」の最大限の発揮、「弱み」の「強み」への転換)

- 北陸新幹線開業で大都市圏との心理的、物理的な距離が縮まったことに加え、今後、グローバル化の進展、情報技術網の発達、第4次産業革命等によるイノベーションなど、急進的な変革が迫られます。経済に関しては、高度人材を国内外から呼び込み、世界トップの戦略的な研究開発を進めたり、文化に関しては、観光や産業活動とも連携して富山県に人を呼び込むことが必要となります。また、人づくりに関しては、今後はより一層、グローバル化の進展といった時代の変化に対応すべく、生涯にわたりキャリアアップが可能となるよう教育や能力開発を充実させる必要があるとともに、様々な人々が支え合い共生していく多様性のある社会を実現することが重要です。
- とりわけ、人口減少は、富山県においては国よりも深刻な影響を受けます。富山県には全国よりも早い時期から人口減少が急速に進み、何も政策的対応をしなければ、約100年後の2110年には現在のおよそ3分の1の35万人、2510年には人口はゼロとなることが予測されています(【参考2】)。

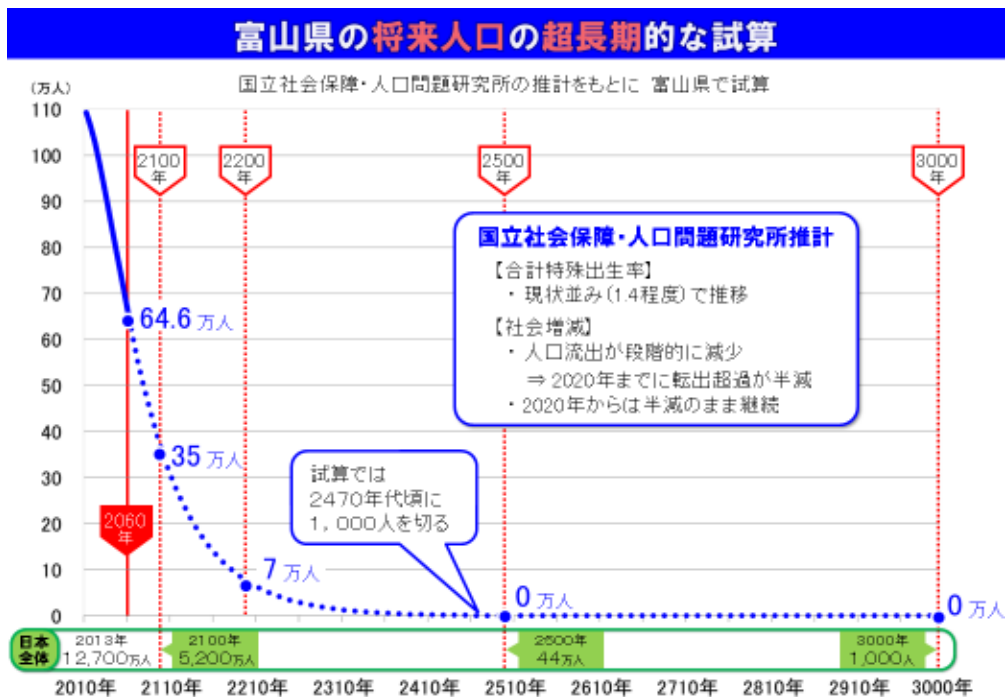
人口減少は県内における市場の縮小をもたらすとともに、一人あたり生産性を高めなければ労働力人口の減少により生産規模も縮小するなど、経済の縮小均衡を招きます。このような状況の下、今のうちから将来を予測し、国内外から人や企業等呼び込んだり、県外へと目を向け積極的に進出することで、経済・文化を活性化することが必要です。また、全国に誇り得る教育県として、創造的なイノベーションを生み出し、不確実な状況で既存の枠組みにとらわれず未来を切り開く感性や柔軟性を持った人材育成をさらに進めていくことが必要です。

- 富山売薬とドラえもんは、世代を超え、時代を超え、文化・国境を越えた普遍性を持っています。富山県人が培ってきた勤勉性とチャレンジ精神を今こそ喚起し、人口減少等の課題を克服し、世界に通じる新たな価値を創り出す必要があります。
- 富山県ならではのビジョンを策定し、それをひとつの道しるべに、いわば「富山県の強みを最大限発揮するとともに弱みを強みに変える」ことで、人口減少をはじめとする世界的な大きなトレンドに県民一丸となって対応し乗り越えていく必要があります。

(参考1)



(参考2)



3. ビジョンの視点

- 富山県の経済・文化に係る長期ビジョンの策定にあたっては、今後 30 年程度先までのトレンドや変化を見据え、以下の視点を踏まえつつ、目指すべき将来像を組み立てる必要があると考えています。

なお、昨年、策定した 5 年間のプランである「とやま未来創生戦略」は、実効性ある政策を行うことにより、人口減少に歯止めをかけ、地方創生を推進するものです。今回のビジョンでは、さらに長期の期間を展望し、目指すべき将来像の実現とともに、「富山県人口ビジョン」の推計人口（2045 年：88 万 6 千人）の上乗せを目指すものです。

(1) 経済と文化の相互作用

富山県は、全国と比較すると製造業の付加価値構成比が非常に高く、富山県の産業の背骨ともいえるべき製造業の新たな発展・飛躍を図ることが重要です。経済力に併せて、これからはソフトパワーである文化の力と産業とを連関させて富山県の活性化を図っていくことも必要です。幸運にも、本県は多彩な地域資源、文化芸術に恵まれています。経済（生産活動）と文化（生活様式）といった異なる分野をバランスさせていくという複眼的視点が必要です。

「30年」の日本、富山の変化率

項 目	富山県			全国			数値の対象年度
	30年前	現在	変化率	30年前	現在	変化率	
経済	2.62	4.36	1.67 倍	275.9	500.20	1.81 倍	1982年/2012年
うち 第一次産業	0.98	0.53	0.54 倍	8.6	5.4	0.63 倍	
うち 第二次産業	1.09	1.38	1.27 倍	102.9	117.5	1.14 倍	
うち 第三次産業	1.25	2.93	2.35 倍	145.0	374.4	2.58 倍	
2人以上勤労者世帯の可処分所得(千円/月)	353	448	1.27 倍	317	393	1.24 倍	1984年/2009年

※富山県作成

(2) 第4次産業革命への対応

第4次産業革命は、社会的課題を解決し、個々の潜在的ニーズを呼び起こす新たな産業を創出するものと期待されています。一方で、ロボット技術の進展やAIの導入等に伴い、生産性は向上するものの、多くの仕事がロボットやAI等で代替されることも予想されています。労働生産性を高め、新たな付加価値を生み出すためには、産業構造、就業構造、さらには変革に対応した人材育成など、この波に乗り遅れないよう富山県における経済社会システムの再設計、さらには率先して創造的なイノベーションを行い対応していくことが不可欠です。


本県は低廉な電力と工業用水に支えられ、昭和43年の富山新港の開港による臨海工業地帯が整備されたことで、アルミ建材産業が発展し、日本海側屈指の工業集積地に成長し、昭和59年のテクノポリス地域の指定を受けてハイテク関連企業の立地、さらには高いものづくり技術を活かし、バイオ、ロボット、IT関連分野などの最先端のものづくり企業が集積しています。ものづくり集積の地域特性を活かし、第4次産業革命に対応した新産業の創出、人材育成に果敢に対応していく必要があります。全国に誇り得る教育

県として、これからもその伝統を引き継ぐ一方、これからの社会に求められる多様な人々と協働する力、感性やリーダーシップ、チャレンジする意欲といった資質・能力、情報・データや情報技術を使いこなす力を育成するとともに、産業界のニーズを一層踏まえたキャリア教育を展開するなど、「富山・新スタンダード」を確立、推進していくことが求められています。

第4次産業革命による就業構造の試算(職業別の従業者数の変化)

※2015年度と2030年度の比較

職業	変革シナリオにおける姿	職業別従業者数		職業別従業者数(年率)	
		現状放置	変革	現状放置	変革
① 上流工程 <small>経営戦略策定担当、研究開発者等</small>	経営・商品企画、マーケティング、R&D等、新たなビジネスを担う中核人材が 増加 。	-136万人	+96万人	-2.2%	+1.2%
② 製造・調達 <small>製造ラインの工具、企業の調達管理部門等</small>	AIやロボットによる代替が進み、 変革の成否を問わず減少 。	-262万人	-297万人	-1.2%	-1.4%
③ 営業販売(低代替確率) <small>カスタマイズされた高単価保険商品の営業担当等</small>	高度なコンサルティング機能が競争力の源泉となる商品・サービス等の営業販売に係る仕事が 増加 。	-62万人	+114万人	-1.2%	+1.7%
④ 営業販売(高代替確率) <small>低単価・定型的保険商品の販売員、スーパーレジ係等</small>	AI、ビッグデータによる効率化・自動化が進み、 変革の成否を問わず減少 。	-62万人	-68万人	-1.3%	-1.4%
⑤ サービス(低代替確率) <small>高級レストランの接客係、きめ細やかな介護等</small>	人が直接対応することが質・価値の向上につながる高付加価値なサービスに係る仕事が 増加 。	-6万人	+179万人	-0.1%	+1.8%
⑥ サービス(高代替確率) <small>大衆飲食店の店員、コールセンター等</small>	AI・ロボットによる効率化・自動化が進み、 減少 。 ※現状放置シナリオでは雇用の受け皿になり、微増。	+23万人	-51万人	+0.1%	-0.3%
⑦ IT業務 <small>製造業におけるIoTビジネスの開発者、ITセキュリティ担当等</small>	製造業のIoT化やセキュリティ強化など、産業全般でIT業務への需要が高まり、従事者が 増加 。	-3万人	+45万人	-0.2%	+2.1%
⑧ バックオフィス <small>経理、総務管理等の人事部門、データ入力係等</small>	AIやグローバルアウトソースによる代替が進み、 変革の成否を問わず減少 。	-145万人	-143万人	-0.8%	-0.8%
⑨ その他 <small>建設作業員等</small>	AI・ロボットによる効率化・自動化が進み、 減少 。	-82万人	-37万人	-1.1%	-0.5%
合計		-735万人	-161万人	-0.8%	-0.2%

(出所) 株式会社野村総合研究所およびオックスフォード大学 (Michael A. Osborne博士、Carl Benedikt Frey博士) の、日本の職業におけるコンピュータ化可能確率に関する共同研究成果を用いて経済産業省作成  経済産業省

[出典] 産業構造審議会 新産業構造部会(第8回)資料

(3) パワーバランスの変化、グローバル化への対応

中国は、現在、経済成長が減速しているといわれていますが、あと10年余りでアメリカを追い抜くのではないかと多くの民間調査機関は予測しています。冷戦終結後は、これまで、アメリカが経済力でも優位でしたが、中国を含めた新興国等の台頭により、世界のパワーバランスは多極型へと変化しています。特に、東アジア諸国は1997年のアジア経済危機後は堅調な経済成長を遂げている国も多く、また、インドは人口の急速な伸び等を背景に世界における経済上の存在感が増しています。こうした中、東アジア、インド等との物的・人的交流を県レベルでも深め、ともに発展するという視点が重要です。

特に、富山県は、「逆さ地図」でみると、環日本海において中心に位置しており、中国、台湾、韓国、ロシアなど環日本海諸国、さらには東アジアへと、経済活動や文化的交流を進めていく必要があります。

	1990年	2000年	2010年	2014年	倍率 2014/1990	年平均伸率 (00~10)	年平均伸率 (10~14)
日本	31,037	47,301	55,141	46,055	1.5倍	1.5%	-1.8%
中国	3,966	12,089	60,054	104,306	26.3倍	17.4%	5.7%
インド	3,203	4,586	16,688	20,549	6.4倍	13.8%	2.1%
タイ	883	1,261	3,409	4,048	4.6倍	10.5%	1.7%
インドネシア	1,339	1,757	7,551	8,885	6.6倍	15.7%	1.6%
ロシア	5,710	2,597	15,249	18,499	3.2倍	19.4%	2.0%
アメリカ	59,796	102,848	149,644	173,481	2.9倍	3.8%	1.5%

(各国のGDPの推移) 富山県作成

また、グローバル化は単なる国際化とは異なり、全世界が普遍的な価値で一体化することと言われています。個人が自らのふるさと、文化に矜持を保ちながら、世界を俯瞰し、多様な価値観を備えることがグローバル社会を切り開くために必要な素養といえます。富山県においてもグローバル化の波に埋没することなく、地域のオリジナリティをしっかりと堅持し、発信、発展させていくことが重要です。

(4) 「富山アイデンティティ」の継承

勤勉で進取の気性に富む県民性、土徳などの地域の絆、ライチョウも生息する雄大な立山連峰と神秘の海富山湾など豊かで美しい自然環境、良質な水と新鮮でおいしい食など、個々の生活の集大成が「群」となって、全国トップクラスの住みよさを形成している点が、富山県のアイデンティティ（個性）ではないかと考えます。一つの山がそびえる富士山と異なり、立山連峰に生まれた「群」をなす「富山アイデンティティ」に、不変なもの、守るべきものが見えてきます。富山県人が培ってきた県民性、大地が織りなす豊かな自然を後世にしっかりと受け継ぐことが大切です。

(5) 新ゴールデンルートの確立

北陸新幹線の大阪までの全線開通延伸により、現在の首都圏から中京圏、関西圏までの「ゴールデンルート」と、首都圏と富山県を含む北陸、関西圏を結ぶ「新ゴールデンルート」がループ状につながることで、この沿線の人口は日本の人口の約半数を占める一大経済文化圏となり、富山県から三大都市圏へはいずれも概ね2時間強で結ばれることにもなり、世界でも有数の大回廊が形成されます。これにより、富山県を含む北陸のポジションは押し上げられ、どちらが表・裏かといった議論を乗り越え、払拭し、日本全体の発展を図る上で計り知れない

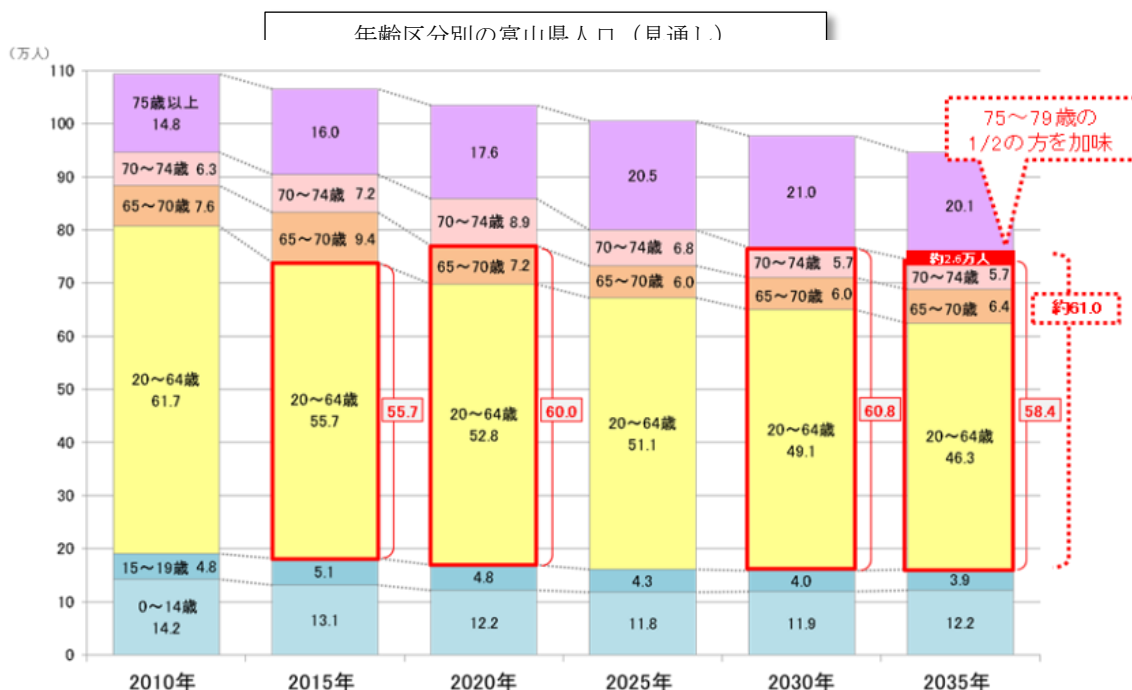


インパクトがあります。この大回廊の中で、東海北陸自動車道の全線4車線化も含めて、富山県が要、拠点県となるよう、いかにその存在価値を発揮し、経済活動・文化的な活動に活かしていくかが重要です。

富山県は環日本海地域のリンクと「大ゴールデン回廊」のリンク、二つの大リンクの接点という極めて恵まれたポジションに位置しています。地政学的なポテンシャルを大いに活かして、富山県の新たな飛躍に結びつけることが重要です。

(6) 生涯現役社会の実現と健康寿命の延伸

1950年当時、日本人の平均寿命は60歳に達していませんでしたが、現在は84歳です。20世紀後半の50年間に30年近く延びたこととなります。これは「寿命革命」と呼ばれ、人生90年時代も遠くない未来といえます。少子化・超高齢化が進む中、生産年齢人口を再定義して、働きたい人が健康を維持しつつ働き、経済や社会に貢献していく仕組みを整備することが重要です。富山県の高齢化率は約30.5%と全国平均(約26.7%)よりも高い現状にあります。高齢化について悲観的な考え方を転換し、高齢者がいつまでも健康でかがやける社会を構築することが必要です。そのためには、健康寿命を延伸し、高齢者が日常生活を健康に営むことが必要です。



Ⅲ 3つの目指すべき将来像と9つの展開方向

1. 「2045年の将来像」を描くための考察

- 富山県において人口構成の転換点を迎える2045年に向かって、日本を巻き込んだ世界的な大きなトレンドとして以下の事象が予測されています。

- ①人口変化 … 2045年には日本の人口は1億人余りとなり、現在よりも約2400万人減少。約4割が高齢者（65歳以上）になると推計。地方では高齢者も減少。一方で、アジア・アフリカ地域の人口は急激に人口が増加。
- ②技術革新 … 科学技術白書2016では、実用化の可能性の高い20年後に当たる2035年頃の社会像として、自動運転車を自らがデザインできる、地域ぐるみで太陽光発電などを利用する技術が普及、ベテラン農家の匠の技をデータ解析した農業経営などの例をあげ、超スマート社会が到来することを予測している。
- ③環境の変化、災害リスク … 2030年ごろには平均気温が約1℃程度上昇し、今世紀末には4℃の上昇も予測され、気候帯が400km程度北に移ることが想定。また、首都直下地震、南海トラフ巨大地震は、現在30年以内の発生確率が70%と予測。
- ④グローバル化・フラット化
大容量の情報ネットワークで世界中が瞬時につながり、時間と空間が急激に変化するとともに、リアルとバーチャルの世界も広まっていく。宇宙や海洋・海底の利活用が促進され、人々の行動・探索範囲が広がる。
- ⑤交通基盤の整備
北陸新幹線の大阪延伸による新ゴールデンルートの確立のほか、リニア新幹線の東京、大阪間の開通により、日本の地方間をつなぐ交通基盤が大きく変化している。

- 将来を予測する様々な根拠をもとに、予測される未来社会を富山県の将来に適合させて、将来像や採るべき展開方向を考察した仮説の例を下表のとおり示しています。

予測可能なトレンドがもたらす将来の富山県のすがた(仮説)

	経済	文化	人づくり
人口の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○生産年齢人口の減少により、経済活動における生産性の向上が求められる ○生産年齢人口(15歳～65歳)の再定義が必要となる。 ○労働人口減少に伴う、女性・高齢者就業促進の重要性が増す(ロボットスーツを着用し、高齢者の重作業が可能となる(介護、農業、サービス業)) ○超高齢化社会の到来により、新たな健康長寿産業を創出するチャンスが拡大する。 ○人口爆発の途上国支援とさせた新しいビジネスモデルの要請が高まる ○人口減少に伴う無居住地区を活用した新たな県土再生の方策の構築が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちへ、本物の文化活動への接触機会が多く与えられる ○高齢者のセカンドライフとして、文化活動への必要性が高まる ○地域文化、地域資源の継承が重要となる 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識偏重教育からインベーションを生み出す教育が求められる ○児童生徒の減少に伴う小中高校の在り方の見直しが必要となる ○女性・高齢者を対象とした生涯教育が重要となる ○地域医療・介護の効率化に対応した人材育成が求められる ○IT教育の拡充、情報分析力の向上が求められる ○アジア留学生の受入が増加する
劇的な技術革新の進展 環境問題 首都直下地震、南海トラフ巨大地震など災害リスク	<ul style="list-style-type: none"> ○IoTの進展、ロボテックス、再生医療、省エネ、医療機器などの革新技術により、本県ものづくり産業の新産業創造の可能性が広がる ○ビッグデータの活用により最適化が進み、起業のチャンスが生まれる ○アジア途上国の環境問題に貢献するため、県内廃棄物処理技術が必要とされる ○地球温暖化により、熱帯性感染症など新たな病気の対応が必要となる ○農林漁業のICT化や生産性向上により、新たな雇用が生まれる ○日本海メタンハイドレードの活用が期待される ○農林産物を使用した医薬品・医療薬新素材の実用化(薬用植物など)が期待される ○バイオ技術の深化により、寒冷地に新たな作物の農地が開拓される ○危機管理や新幹線開業の観点から、首都圏からの企業立地が進む 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民生活の利便性が向上し、生活の質が向上することで、文化への意識が高まる ○ICT技術などを取り込み、教育現場と文化施設をネットワーク化するなどして、クリエイティブな場づくりへの取組みが可能となる 	<ul style="list-style-type: none"> ○新産業創出や文化施設の活用を支援するプラットフォームの形成が重要となる ○サバティカル制度などの導入により異分野交流、専門分野以外の交流が一般化する ○国内外からクリエイティブクラスの人材誘致が求められる ○健康寿命の延伸により、高齢者の活躍が期待される ○災害に強い、自然豊かな富山県の価値が高まり、移住が促進される。 ○コンピューターの仕事を奪われないためのリカレント教育が求められる
グローバル化(フラット化)	<ul style="list-style-type: none"> ○TPPなど産業障壁がフラット化し、県内製品の輸出が促進される。 ○数値化できるような性質・品質の向上だけでなく、消費者に感動、物語などの付加価値が必要とされる。(スイスのようなものづくり産業) ○多言語翻訳機の普及など、「言葉の壁」が克服される(観光産業の後押し) ○北極海航路の構築など海上輸送のスピード化が進む 	<ul style="list-style-type: none"> ○自国文化への理解、リベラルアーツの必要性が高まる ○アジアを中心に日本文化に対する関心が高まる ○地域間競争がますます激化し、ローカルブランディングの重要性が増す(本県の強みを国内外に発信) 	<ul style="list-style-type: none"> ○愛郷心向上とグローバル教育を併せ持った人材育成が求められる ○留学機会の増加が求められる ○アジア時代に向けて経済、文化、人づくりなど地方のグローバル化を総合的に取り組むための指針づくりが求められる。
北陸新幹線大阪延伸を含めた交通基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ○新ゴールデンルートが確立され、富山県へのヒト、モノの流動性が飛躍的に高まる ○新幹線による貨物列車運行が可能となる ○地方観光業が発展し、新たな雇用を生む 	<ul style="list-style-type: none"> ○富山の文化に興味をもった定住者(外国人)が増加する 	<ul style="list-style-type: none"> ○移動時間短縮による生産性向上(東京・大阪双方の時間短縮) ○車の全自動運転が促進され、車社会の在り方が変わる

[出典]第2回青年部会資料(一部修正)

2. 3つの将来像と9つの展開方向

- 平成27年10月に、「富山県経済・文化長期ビジョン懇話会」、次代を担う若者を対象とした「ビジョン懇話会青年部会」を設置し、各々4回の会議を開催し、将来像に向けたご意見や採るべき展開方向について様々なご提言などをいただきました。ご意見、ご提言を経済、文化、人づくりのテーマごとに分類し、左欄に3つの共通項を示したマトリックスを下表のとおり取りまとめました。

富山県経済文化長期ビジョン懇話会・青年部会のこれまでの議論総括

	経 済	文 化	人づくり
新たな価値創造	<p>ICTの活用、生産性向上</p> <p>ものづくりの新機軸、新産業創出、研究開発、科学技術、起業支援、生産性向上、IoT・ICT活用、課題解決、デザイン、エネルギー・環境、農林水産業の成長産業化、くすり集積、経営サポート、事業継承</p>	<p>文化の価値創造、伝統継承</p> <p>質の高い文化創造、地域文化・資源の発掘、伝承、伝統工芸・伝統芸能の育成・伝承、文化的賑わい創出、クリエイティブ・コンテンツ産業・人材の振興</p>	<p>創造性を育む学校教育 (幼児・小中・高等教育)</p> <p>創造性を育む教育、企業や社会が求める教育(ダイアログ、ディスカッション、ディベート)、コミュニケーション能力の醸成、富山型教育の確立、職業体験、キャリア教育</p>
グローバル&ローカル	<p>グローバル戦略の展開</p> <p>グローバル戦略、海外販路開拓、システム輸出、TPP、農林水産品輸出、外国人雇用、クリエイティブクラス人材受入、国際観光の基幹産業化、MICE</p>	<p>とやま文化の発信</p> <p>文化力の発信、文化プログラムの開発、食文化など文化コンテンツの海外展開、防災遺産の発信、異文化受入整備、ローカルブランディング</p>	<p>ふるさと教育、グローバル教育 (一般県民)</p> <p>ふるさと教育、愛郷心の醸成、「県学」教育、偉人発掘、リカレント教育、産業観光、英語教育、留学生受入、グローバル教育</p>
人材・地域力	<p>個の力の磨き上げ、人材の育成確保</p> <p>ものづくり人材の確保、プロフェッショナル人材の育成、匠の継承、生産年齢の再定義、高齢者就労、女性の活躍の場の創出、大学改革</p>	<p>文化の場づくり、人づくり</p> <p>文化の場づくり、人づくり、文化活動支援、指導者・伝承者育成、文化と若者をつなぐプログラム開発、女性目線での文化振興</p>	<p>地域力(凝集力)の向上</p> <p>地域力(自然、安全安心、健康寿命)の醸成、大地方の教育、高齢者・女性に対する地域ケア、シェアリングエコノミー、県土活用、次世代ICTインフラ</p>

[出典]第3回懇話会資料

- 各委員からのご意見、ご提言を踏まえ、さらには今後30～40年の大きなトレンドなどを参考に、展望年次である2045年における富山県の将来像とその実現に向けた展開方向を以下のとおりとします。

将来像	展開方向
1 新たな価値創造 2045	<p>① 生産性向上と新たな価値創造の創出</p> <p>② 地域文化が生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」の形成</p> <p>③ 価値創造力を高める学校教育プログラムの確立</p>

2 グローバル&ローカル 2045	④ 世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開 ⑤ 世界に開かれた「とやま文化」の発信 ⑥ ふるさと教育とグローバル教育の融合 (Think global, Act local)
3 人、地域が輝く 2045	⑦ 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略の推進 ⑧ 文化芸術の力による「元気とやま」の牽引 ⑨ 地域の生産性、問題解決力 (地域力) の向上

○ それぞれの将来像に対応した各委員からの主なご意見、ご提言は以下の通りです。

(1 新たな価値創造 2045)

- ・今、第4次産業革命という、私たちが思っている以上に大きな変革が世界中で起きている。IoT、ビッグデータ、人工知能などいろいろなものが猛烈な勢いで発展して、それが全部つながっていく。
- ・富山県は、世界に通用するスペシャリティファーマが集積する医薬品産業の拠点を目指すべき。
- ・「生活デザイン王国」とは、単に産物や商品ということだけでなく、文化・デザイン・産業が生活に根付いていて、自分たちがその豊かな生活を一番楽しんでいるということ。こうした生活が、クリエイティブな人材を引き付け、新たな価値の創造につながる。
- ・グローバル化が進み、均一な状況になればなるほど、人間は逆に各人の差異や個別的なものに魅かれていくのではないか。そのため、私たち自身が地域の伝統芸能や生活文化に対して理解を深め、次代の子どもたちに伝えていかなければならない。
- ・今産まれた赤ちゃんが二十歳になったときに、今ある仕事の半分は、ロボットやAIが代替していると推測されていて、その時、人間は、ロボットができないような社会的調整能力、イノベーション的、クリエイティブ的、アートの的なものをするということになるのではないか。
- ・教育にダイアログ (対話) やディスカッション、ディベートを採り入れて、かつ、それを異質者で行うことで、創造的コンフリクト (衝突、摩擦) が生じ、新しい価値は創造される。

(2 グローバル&ローカル 2045)

- ・これからは、地域がグローバルに世界とつながっていくことを求める方向に行く。富山は地域的にみて世界への窓口になれる。
- ・東京を仲介しないバイパス型の海外文化交流の取組みを今後も促進し、富山にしながら、子どもたちや大人が異文化に触れ、深い感動を受けることの意義はとて大きい。
- ・経験上、欧米の人は、科学・技術においても、”もの作り”より「なぜそうなったのか？」という”もの語り”や歴史を知ることがを好むし、自国の産業を育てたい新

興国からの見学・観光にも貢献できる。科学技術、特にモノづくりをまねされたとしても、それを生み出す文化、風土というのはそう簡単にまねができない。

- ・富山のいい文化を世界に発信することで、若い人、子どもたちの自信にもつながっていく。
- ・「人間づくり」。富山県が、最高の日本人づくりをする場であってほしい。富山県は、子どもたちの学力が高く、歴史、文化、地勢的からみても、「理想を実現することが易しい県」である。
- ・ふるさとにどうすれば誇りを持てるかという観点が大事であり、ふるさと教育、ふるさと学を急いでやらないといけない。
- ・決して日本だけでは生きていけないので、ふるさと教育とグローバル教育の融合、グローバル化に対応した教育がこれから一番大事でないか。

(3 人、地域が輝く 2045)

- ・人口が減少していく中において、女性の能力を活用して、登用して活躍してもらわないと、社会が成り立っていかない。
- ・ものづくりを支える技量・技能を持った人材の育成に力をいれることが必要で特に、スペシャリスト（匠）を評価し、育成や確保していくことが重要。
- ・研究等のクリエイションを促進させるものは、研究設備などのハードだけではなく、音楽や絵画といった文化的な環境も含まれる。ハイレベル・ハイセンスな技術者を集めるためには、技術者と文化のつながりを大切にしなければならない。
- ・小さい頃から本物に触れるなど文化的感受性の豊かな人材を育てることは非常に大切なこと。それが本来の文化の持つ生きがいつくりにもつながる。
- ・地域力は二つから成っていて、一つは社会の構成員の人間的な能力。もう一つは、人間が惜しみなく結び付くことによる地域社会の凝集力。幸いなことに、富山県はこれが全部高い。
- ・富山は、人の命、文化も含めて教育という視点から子どもたちに伝えていくことができる場所であるので、この強みをより強化していくことが必要。
- ・寿命と健康寿命の差が非常に大きいことは、人、もの、金、時間を非常に無駄遣いしていること。富山県が健康寿命日本一となれば、経済、文化の問題も一挙に解決するし、高齢者の新しい価値の創造にもつながる。

IV ビジョンの構成

- 「新たな価値創造 2045」、「グローバル&ローカル 2045」、「人、地域が輝く 2045」の3つの将来像ごとに2045年のあるべき姿を、経済・文化・人づくりのそれぞれの観点から描きます。そのあるべき姿を達成するために必要な9つの展開方向について、それぞれ個別に目標を設定します。
- その目標達成のために採るべき構想の詳細については、別紙としてまとめています。
- これらの構想の実現に向けては、県だけではなく、国、市町村、団体、そして勤勉でチャレンジ精神旺盛な多くの県民など様々な主体が、それぞれの役割を發揮していくことが期待されます。

将来像1 新たな価値創造2045

第4次産業革命による技術革新、温暖化への対応、質の高い新たな文化の創造、未来社会に向けた人材育成など、新たな価値を創造し続ける、と同時に、守るべきものを守り、あるものを活かす社会

■「新たな価値創造2045」イメージ

- 本県の優れた製造技術や異業種間のつながり等が、第4次産業革命とされるIoT、ビッグデータの活用、ロボット技術の進展、人工知能（AI）の進化等の技術革新に速応して発展し、県内のあらゆる産業において創造的なイノベーションを通じた新たな価値が創出されています。
- 生活に溶け込んでいる地域の風土・自然、県内に広がる伝統的文化活動が次世代へと継承され維持されると同時に、産業とも関連しつつ情報技術等も活用しながら、グローバル化の中でもその魅力を発信し続けるクリエイティブで質の高い新たな文化が創造されています。
- 未来の社会において、①産業界に創造的なイノベーションを生み出す「人材」、②質の高い文化の担い手となる「人材」、③先を見越すことが困難で不確実な状況においても既存の枠組みにとらわれず未来を切り開く行動力を備え、豊かな感性や創造性を有する「人材」を育成する学校教育や学習システムが充実し、絶えず新たな価値がこれらの人材により創造されています。

■ビジョンの展開方向と具体的構想

(1) 生産性向上と新たな価値創造の創出

労働力減少に対応した生産性向上とストックを活かした新たな需要創出を図る「とやまバリュー」の創造を目指す。

<展開方向の目標>

本県の製造技術を活かし、第4次産業革命による技術革新に対応した「富山型スマート工場モデル」を県内の各工場で普及させることで生産性が劇的に向上します。また、イノベーションによる創造を通じた既存の産業の発展、新たな産業の創出、世界をリードする「薬都とやま」ブランドの確立、地熱・水素等再生可能エネルギーの利活用の促進、情報技術を活用したスマート農林水産業の展開が進みます。このような状況下、一大交流・経済圏である大ゴールデン回廊（※）において本県の拠点化を進めることで、県内製品・サービス等に対する新たな需要を国内外に創出し、その「とやまバリュー」が世界中に知れ渡るブランドとして人々の生活に貢献しています。

※ 北陸新幹線大阪延伸により、東京ー大阪間でゴールデンルートと新ゴールデンルートがループ状につながり形成される回廊

＜採るべき構想例＞

- 構想 1 第 4 次産業革命を勝ち抜くための製造・研究開発拠点の整備
- 構想 2 とやま産！再生可能エネルギー活用日本一と水素社会の構築
- 構想 3 バイオ技術を活かした「薬都とやま」の確立
- 構想 4 成長産業として力強く魅力あふれる農林水産業の確立
- 構想 5 北陸新幹線大阪延伸による大ゴールデン回廊形成と拠点性の強化

(2) 地域文化が生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」の形成

富山の文化的ポテンシャルを活用・発展させ、県民生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」を目指す。

＜展開方向の目標＞

地域の文化的な潜在力を開花させ、独創的なアートとデザインを活かした工芸品等の「TOYAMA ブランド」を創出して国内外に発信するとともに、アニメ、キャラクター等のクリエイティブな文化産業の集積を図ること等を通じて、質の高い新たな文化を創造します。その地域に根差した文化は、日常と切り離されたものではなく県民にとって身近で生活に溶け込んだものであるとともに、グローバル化の中でもその当たり前の魅力が発信されるものです。こうして、富山県は、「生活文化デザイン王国」となります。

＜採るべき構想例＞

- 構想 6 未来の生活様式を見据えたアート・デザイン県とやまの創出
- 構想 7 30 年後の未来へ残る普遍的なクリエイティブな文化の創造
- 構想 8 文化芸術資源をもとにした文化芸術クラスターの形成

(3) 価値創造力を高める学校教育プログラムの確立

社会や企業が求める基礎力、イノベーションを生み出す「富山・新スタンダードの確立」を目指す。

＜展開方向の目標＞

新たな価値が絶えず産み出される創造的な未来社会においても、コミュニケーション能力等の基礎力（ヒューマンスキル）は引き続き創造の基盤であり、重要です。この社会や企業が求める基礎力に加えて、IT 等の科学技術を使いこなせる能力（テクニカルスキル）を子ども達に身につけてもらうとともに、産官学の連携をさらに深めたキャリア教育を展開することで、「富山・新スタンダード」の確立を目指します。例えば、アクティブ・ラーニングを利用した学習システム、県内産業界からのニーズを踏まえたキャリア教育に係るコンテンツ開発など、県内教育プログラムの充実を図ります。

<採るべき構想例>

構想 9 未来のイノベーションを起こすために必要な人材の育成

構想 10 未来社会が求める人材を輩出する新たなキャリア教育システムの確立

構想 11 第4次産業革命を見据えた人材育成のための教育研究体制の構築

将来像2 グローバル&ローカル2045

「グローバル&ローカル」の融合により、新たなイノベーション、洗練されたデザインによる新製品、新サービスや、磨き上げた質の高い文化や人材などの魅力（ソフトパワー）により、国内外から人や企業が集積している社会

■「グローバル&ローカル2045」イメージ

- 本県の風土「ローカル」から生まれた独創性のある高品質な製品・サービスが、経済成長著しい新興国（中国、インド、アジア諸国、アフリカ諸国等）を含む「グローバル」な市場の需要を喚起し、これらの国のニーズに柔軟かつきめ細かに応えることで新たなイノベーション、製品・サービスの向上が持続的に行われています。こうして県内企業自体の価値、さらには地域の価値が向上し、高度人材や先進的な企業を国内外から引きつけ、更なる高付加価値の製品・サービスを創出し、国内外において富山県の存在感は飛躍的に高まっています。
- 本県の多彩で優れた文化資源が大いに活かされ、地域の魅力が向上し、国内外の観光客や関連企業等を呼び込むことで、街は賑わい、経済が活性化するとともに、「とやま文化」が東京を経由せず海外に直接発信され海外の文化人を魅了しています。また、文化を通じた国内外の人的交流が促進され、「とやま文化」は進化し続け、それがさらに人や経済の呼び水となっています。
- グローバル化の進展により、国境を越えた社会経済活動が当たり前となる中、日本人、富山県人としてのアイデンティティを保ちながら、ふるさと教育とグローバル教育を組み合わせた教育を通じ、国際的に活躍して海外の優れた産業技術や文化を吸収し、それを発展して富山県に還元できるバランス感覚のある人材が数多く輩出されています。また、これらの人材が国内外で構築した経済・文化的なネットワークや、彼らが生み出す製品・サービスの魅力（ソフトパワー）による信頼が発信源となり、国内外からの人材・投資を引きつけています。

■ビジョンの展開方向と具体的構想

（4）世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開

新興国をはじめとした成長エネルギーを取り込みながら、世界で存在感を示すグローバル戦略の形成を目指す。

<展開方向の目標>

経済成長した新興国市場等の「グローバル」な市場に対し、富山発の工業製品、工業品、農林水産物等を積極的に売り込み、輸出の大幅な拡大や、当該製品等に係る対日投資を呼び込み、大ゴールデン回廊下、優位にある交通網を活かして物流の活性化を行います。こうして、県内企業自体の価値、地域の価値を向上させ、高度人材や先進的な企業を国内外から引きつけ、更なる高付加価値の製品・サービスを創出していきます。とりわけ、アジア各国との結びつきは重要であり、例えば、世界の保健医療

の向上にも貢献すべく、医薬品・医療機器等についてアジア諸国との人的交流を進め、「とやまの薬」を国際展開します。

<採るべき構想例>

構想 12 「とやまグローバル戦略」の推進

構想 13 選ばれ続ける観光地 富山

構想 14 アジア諸国とのネットワーク構築による「とやまの薬」の国際展開

(5) 世界に開かれた「とやま文化」の発信

自己認識の基点となる文化の国際化を促進し、文化と産業、文化と観光の親和性を高め、とやま文化発信を目指す。

<展開方向の目標>

文化施設、文化財をユニークベニュー（※）などで観光資源として活用するとともに、国際的文化イベントの誘致や、古くは大伴家持に遡る富山県ゆかりの文芸の発信を積極的に行うことで、本県の地域の魅力を向上させ、国内外の観光客のみならず関連企業等と呼び込みます。こうして、街は賑わい、文化に係る GDP を引き上げ、地域経済が活性化するとともに、「とやまの文化」の認知度が世界中で上がることで、文化を通じた国内外の人的交流や物的交流を促進し、「とやまの文化」を進化させ続けます。

※ユニークベニュー：「特別な場所」でのイベント実施により「特別な体験」を創り出す仕組み

<採るべき構想例>

構想 15 世界への発信による「とやまの文化GDP」の拡大

構想 16 アジアの舞台芸術拠点「TOGA」による地域の活性化

(6) ふるさと教育とグローバル教育の融合 (Think global, Act local)

学校、家庭、地域が一体となったふるさと教育（学習）を推進するとともに、グローバル化に対応した教育環境を整備。

<展開方向の目標>

日本人、富山県人としてのアイデンティティを形成するため、とやまの人物・文化・産業・歴史等を探求する「ふるさと教育」を充実させます。同時に、グローバル化が進む中、海外の優れた産業技術や文化を吸収し、それを発展して富山県に還元できる人材が必要であり、そのための基盤である英語や中国語等の語学力の向上を図るべく支援します。これらの人材が国内外で構築する経済・文化的なネットワークに加え、姉妹校など学校レベルでの交流網も構築し、留学生等の人材も引きつけ、そうした「つながり」の財産を次の世代へと継承します。

<採るべき構想例>

構想 17 富山が誇る「ふるさと富山」の探究（「とやま藩校」の体制整備）

構想 18 郷土を学び英語で伝えるコミュニケーション能力の養成

構想 19 大学や高校におけるグローバルな教育環境の整備

将来像3 人、地域が輝く2045

すべての人のキャリアアップの環境が整備され、誰もが文化活動に参加し、才能ある多様な人材に溢れている。若者、女性、高齢者など多様な人材や地域力が研磨され、ダイバーシティを尊重する心豊かな県民が集い、経済と文化が響きあい共生している社会

■「人、地域が輝く2045」イメージ

- 個々人が、年齢や性別に関わらず、常日頃からキャリアアップを図り、潜在的な能力の向上を図っています。それは、健康を保持し、家庭や地域における生活や結婚、出産、子育てなどライフイベントを楽しみつつ行われています。そのための学校、行政、民間企業、地域のインフラや環境が整備されています。
- 身近な環境で子どもの頃から多様で上質な文化に気軽に触れる機会があることで、県民は、人間の心の隙間を埋めたり、張り詰めた日常に潤いや癒しをもたらし、豊かな人生を送っています。その中から文化の担い手として活躍する人材が自然と輩出され、地域において質の高い文化の創造の基盤が形成されています。
- いわゆる互助の必要性が再認識され、新たに国内外から訪れた人材が地域に溶け込み、ダイバーシティを尊重する心豊かな県民が地域間での情報の密度を引き上げ、経済や文化が響き合う新たなコミュニティが創られています。

■ビジョンの展開方向と具体的構想

(7) 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略の推進

高度専門人材の育成確保、クリエイティブ人材の創出、高齢者や女性のパワーアップなどの人的資源戦略を進める。

<展開方向の目標>

人口減少、超高齢社会を迎え、グローバル化が進む中で急速に進展する技術革新に迅速かつ柔軟に対応するため、生産年齢人口の範囲を広げて高齢者が健康に留意しつつ長い職業人生を送ることを可能とするとともに、若者や女性の活躍を推進します。また、ワーク・ライフ・バランスを高めつつ、労働生産性を高めるため、ふるさとテレワークの推進といった働き方改革も進めます。こうした政策を通じ、個々人が自らキャリアアップを行う環境整備を行い、その能力や経験を最大限発揮できるようにします。

<採るべき構想例>

構想 20 生産年齢の引上げによる高齢者の活用促進（「かがやき現役率の向上」）

構想 21 若者や女性などが個性と能力を十分発揮できるキャリアアップの仕組みの構築

(8) 文化芸術の力による「元気とやま」の牽引

文化の場づくりと文化の人づくりを促進し、文化の力が持つ心の癒し、生きがいづくりにより元気富山を牽引。

<展開方向の目標>

学校や地域といった身近な環境で子どもの頃から芸術文化に触れる機会を提供して文化への関心を高め、文化の担い手の育成を図ります。同時に、県民が新たな文化に気軽に触れる機会や文化を創造する機会の環境整備を行うことで、さらに文化を担う人材育成を推進します。また、住民の文化やスポーツに触れる場を提供するため、多目的なアリーナの整備を目指します。

<採るべき構想例>

構想 22 学校と地域でつくる文化の担い手育成

構想 23 芸術文化活動を通じた県民総活躍の場の創出

(9) 地域の生産性、問題解決力（地域力）の向上

地域力を高めるため、地域内での情報の密度を引き上げ、経済や文化、人づくりが響きあう地域づくりを推進。

<展開方向の目標>

地域での人々のつながりがより重要となる中、「環境」と「健康」をキーワードに地域における県民の支えあいに伴う社会貢献の向上を図るため、「ソーシャルキャピタル・マイレージ制度」等を活用し、地域の価値の向上を図ります。また、地域の基盤である公共交通、災害対策等も整備し、魅力的な地域づくりを行います。こうして、新たに国内外から来県した人材も地域に融合することで、個々人が多様でお互いを尊敬し支え合うような魅力的な地域を構築し、「地域力」を向上させます。

<採るべき構想例>

構想 24 富山の地域共生力の強化による地域価値の向上

構想 25 健康寿命日本一とやま

構想 26 先端技術を活用した公共交通のインフラ充実と利便性の向上

構想 27 最先端技術を活かした防災先進県の実現

V おわりに

- この「富山県経済・文化長期ビジョン」は、今後日本や世界で起こり得ると考えられる大きなトレンドなども勘案しながら、2045年の富山県の目指すべき将来像を掲げ、策定したものです。
- グローバル化が進展する中、技術革新や環境問題等により日本や世界の大きなトレンドは刻々と変化しており、時には現段階における想像を超えた変化が起きるかもしれません。それに伴い、このビジョンで掲げた3つの将来像や9つの展開方向も時々刻々と変化し得ます。それに応じて、各構想についても引き続き検討し、時代に合ったものとしていく必要があります。